

## 第 13 回誠愛院内勉強会

日時 : 平成 23 年 2 月 8 日 17:30～  
場所 : 誠愛リハビリテーション病院 研修室  
テーマ : 「脳卒中再発防止のための患者教育」

### 『抄録』

看護部は平成 21 年度から「脳卒中再発防止のための患者教育の推進」を目標に掲げ、本年度からは患者教育の効果を確認するために家庭訪問を実施している。患者さんやその家族は、まずどのような生活習慣が将来、健康に影響を与えるのかについて知識を持つ事が必要である。患者教育委員会では、疾患に対する知識を得ることができるよう脳梗塞、脳出血、糖尿病、高血圧症、服薬管理の 5 種類の患者教育マニュアルを作成している。しかし、慢性疾患患者に必要とされる食事管理や服薬管理などのセルフケア行動は、習慣化されたものであり行動を変える事は容易ではない。そこで、入院中から脳卒中を理解し、自己管理していくという意識と、自己管理するための知識や技術を習得できるようにすることを目的に血圧測定、服薬管理、糖尿病に対するインスリン療法について技術教育を行っている。入院中に患者教育を行うことによって、自己管理できると自信を持つ事に繋がり、健康維持に向けた意識を高めることができる。また、家庭訪問を行う事によって従来は把握する事が困難であった、入院中に指導していたことが自宅で継続されているかを確認できるようになった。

文責 : 看護部 患者教育委員会 林由香

テーマ：『三次元動作解析装置の導入と臨床活用』

誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部  
大田 瑞穂 （理学療法士）

当院のリハビリテーション部では 1998 年に ANIMA 社の三次元動作解析装置 LocusMA6250（カメラ 4 台）を導入し、主に脳血管障害による片麻痺患者を対象とした「歩行動作」や「立ち上がり動作」などの臨床研究を主体に行ってきた。1998 年から 2006 年の 9 年間で 52 演題の学会発表を国内外で行う傍らで、国際医療福祉大学大学院教授の山本澄子先生をお招きして「歩行分析研修会」を開催し、バイオメカニクスに対する知識・新しい知見の理解を深めてきた。

2007 年からは新棟動作解析室に VICON 社製の三次元動作解析装置 VICON MX（カメラ 14 台）、AMTI 社製フォースプレート MSA-06（6 枚）を導入し、臨床評価への運用に用いるべく、新たに動作解析チームを発足し、2011 年 2 月現在までに 34 演題の学会発表を行っている。

現在の取り組みとして、動作解析の歴史の中で主流となっている歩行動作や立ち上がり動作だけではなく、坐位バランス（側方移動・足上げ、リーチ動作）、立位バランス（ステップ動作・ステップ荷重）、上肢・手指動作（到達把持運動）などの評価項目を増やすことで、機能障害が軽度な対象者から重篤な対象者まで分析可能な横断的評価項目であり、機能障害が改善していく過程まで分析可能な縦断的評価項目を作成し、各動作における分析ポイントの研究を行っている。

今後は対象者の状態に適応する評価項目を定期的に分析し、定量的かつ定性的な評価を行うことにより、根拠に裏付けられた先進的なリハビリテーションサービスの提供を行っていく。